

ICTツール(MCS)と 在宅療養支援における活用について



一般社団法人 郡山医師会 郡山市医療介護病院
郡山市在宅医療・介護連携支援センター
社会福祉士・介護支援専門員 國分 元樹

本日の内容について

1. はじめに
2. ICTツールの概要について
3. 郡山市内におけるICTツールの登録状況
4. 在宅療養支援における活用について



1. はじめに





郡山市医療介護病院

桜の木の「ピンク」と複合施設の愛称である「ビッグハート」のハート



郡山市休日・夜間急病センター

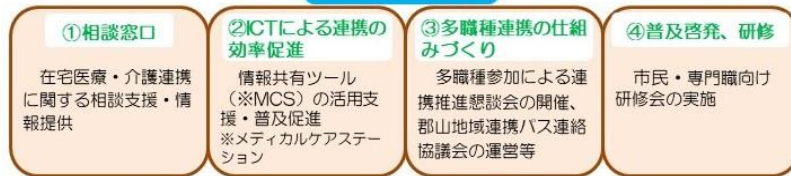
平成18年6月1日に「医療と介護の分野を受け持つ機関」として開院

- ・建物：郡山市にて建設
- ・運営：指定管理制度により郡山医師会。
- ・機能：外来、医療療養病棟、介護医療院、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、通所リハビリテーション、訪問看護、短期入所療養介護、郡山市在宅医療・介護連携支援センター

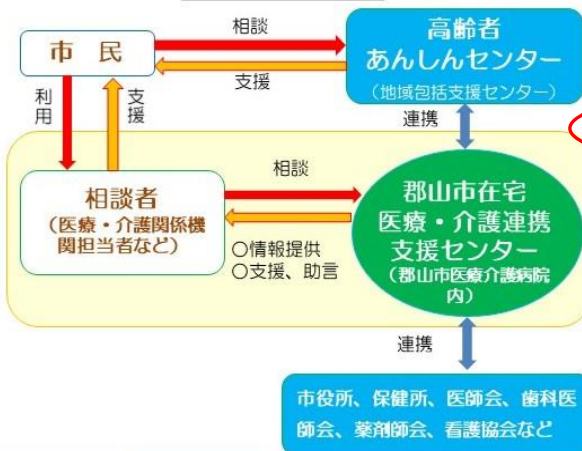
郡山市在宅医療・介護連携支援センターについて

当センターは、平成27年度より市町村が行う事業として、介護保険法の「地域支援事業」に位置付けられた「在宅医療・介護連携推進事業」を推進する事を目的に、平成30年11月に郡山市より委託を受け、郡山医師会で運営している。業務内容は以下の通りである。

主な機能と役割

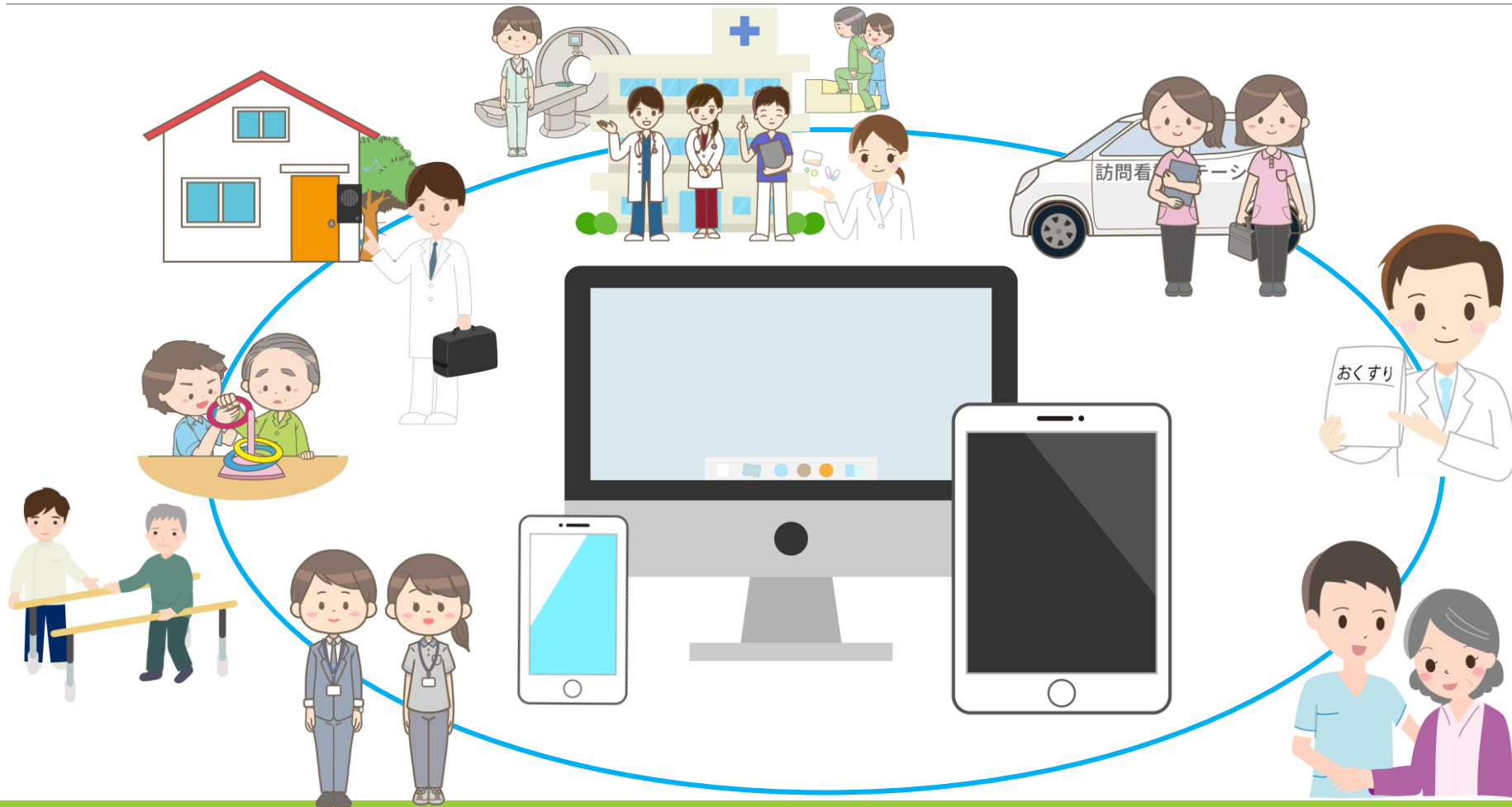


連携の流れ



1. 在宅医療・在宅介護に関する情報収集と公開
2. 専門職からの在宅医療・介護に関する相談受付
3. 多職種連携の仕組みづくり
4. 情報共有ツール(ICT)の普及促進・活用支援
5. 医療と福祉・介護の連携と在宅医療推進に関する事業

2. ICTツールの概要について



医療・介護におけるICTツールについて

<国の動き>

平成13年に高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部（IT戦略本部）を設置して以来、ネットワーク技術を活用した高度なIT利活用社会の実現に向けた議論を重ねている

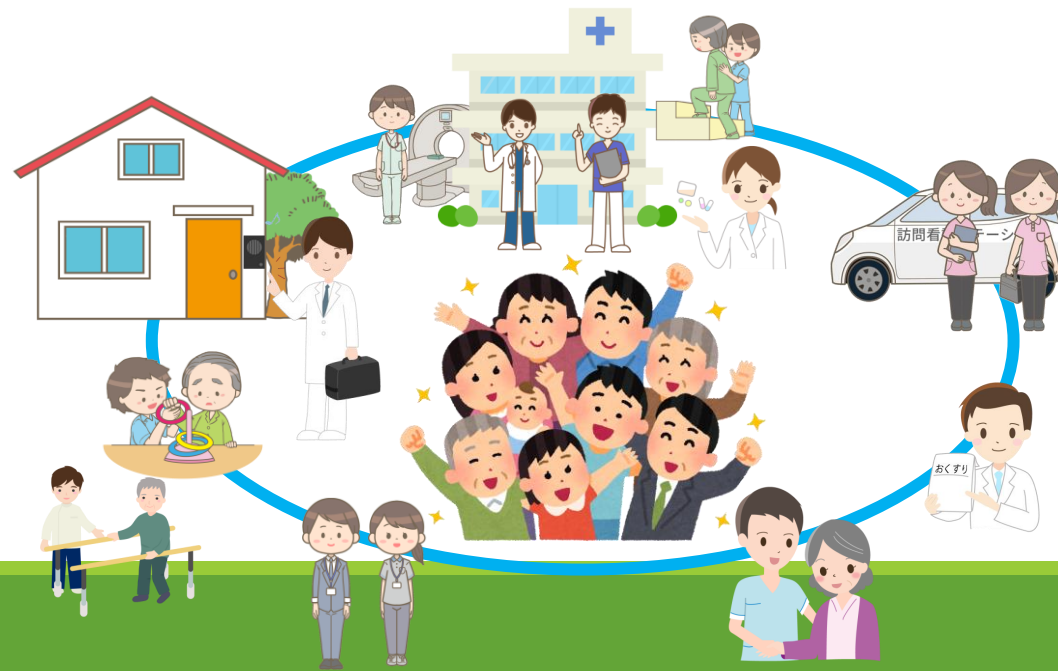
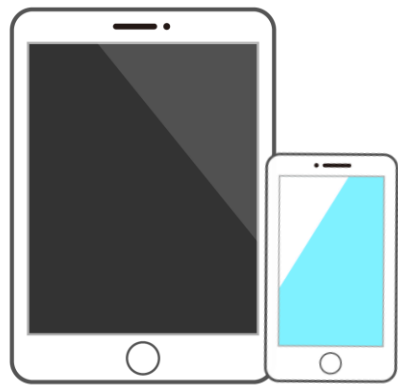


○ICTツールを使用した目指すべき将来像

- ・ **社会の変化に即応した、医療・介護の質の向上**
- ・ **国民の健康づくりを推進**
- ・ **情報共有や情報の利活用の高度化を進め、情報による付加価値を高めていくことができる社会**を目指す必要がある



- ・急性期から在宅医療介護までの機能分化と連携の推進や、地域包括ケアシステムの構築に寄与するような、ICTを活用した医療機関間や医療機関と介護事業所との間の情報共有が全国の各地域で効率的に行われ、地域の医療機関や介護事業所の連携により患者・利用者の状態にあった質の高い医療や介護の提供することが重要である
- ・迅速かつ適切な患者・利用者情報の共有に向けてICT技術を活用する、医療情報連携ネットワークの普及・促進を図り、住民が住み慣れた地域で安心して暮らすことができる社会を実現していく



郡山医師会としてのICTツールについて

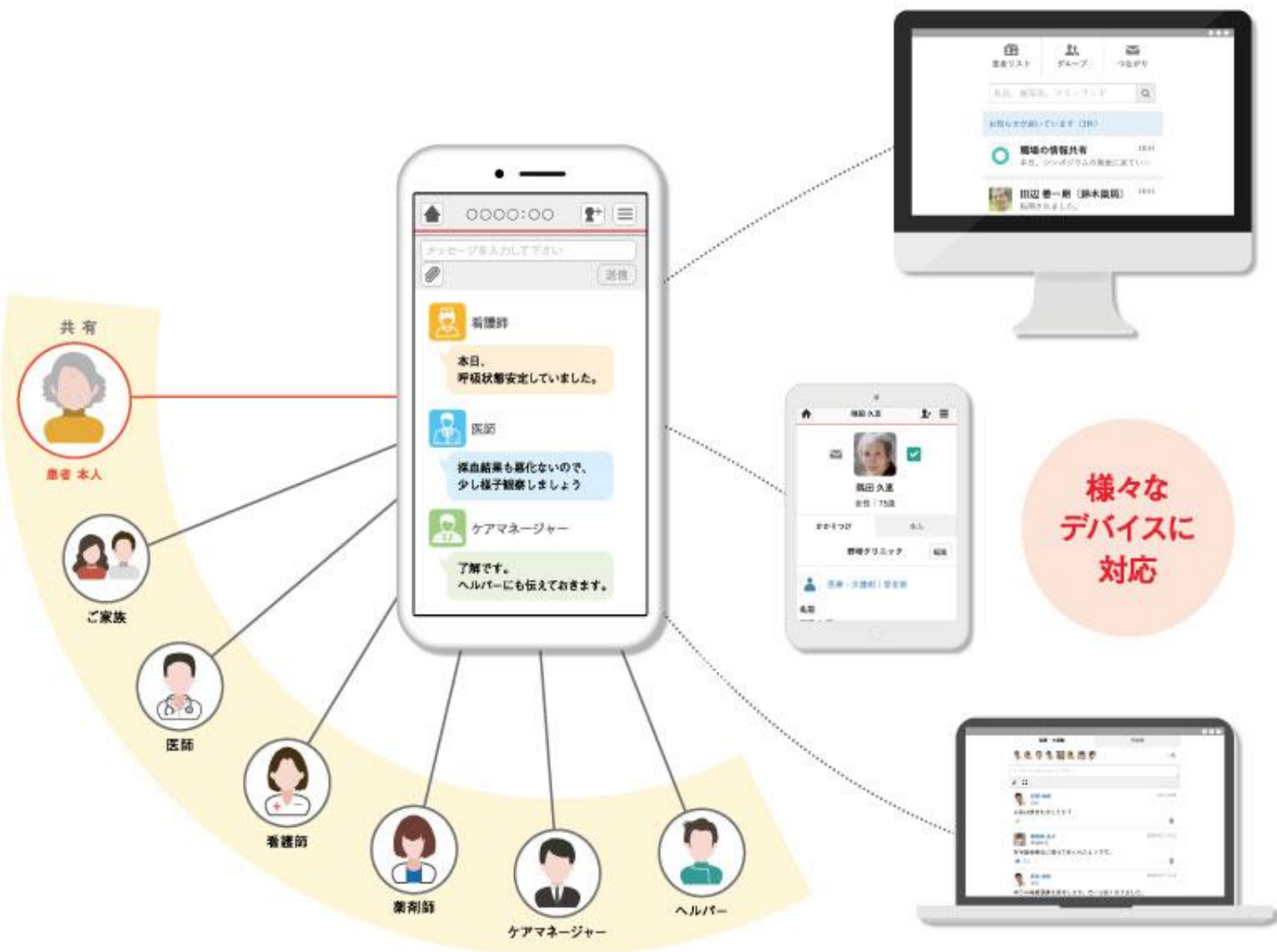
郡山医師会では、数多くあるICTツールより以下の内容を基準に選定

1. 医療・介護専門職が連携に特化した使いやすいツールであること
2. 専門職だけのやり取りではなく、患者様・家族様も活用出来ること
3. 市内には医療機関・介護事業所が数多く存在する為、低コストで利用することが可能であること
4. 厚生労働省：「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」
経済産業省・総務省
「医療情報を取り扱う情報システム・サービスの提供事業者における安全管理ガイドライン」
3省2ガイドラインに準拠したものであること
5. 全国の医師会での採用実績が多いもの

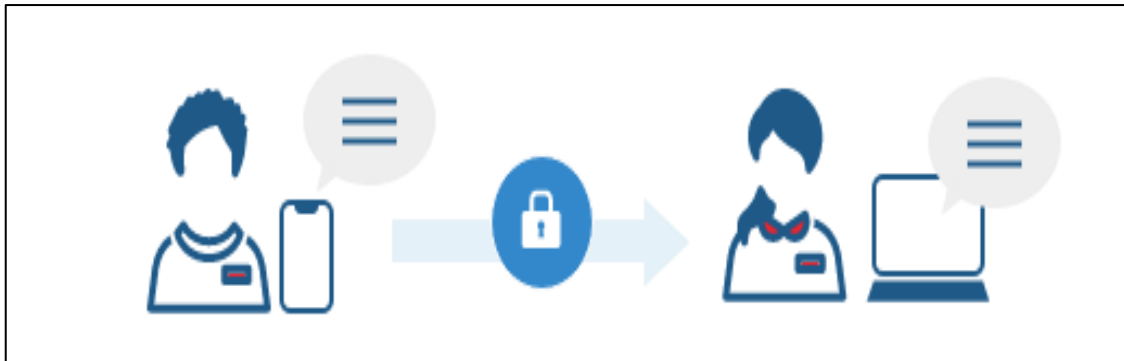
(株)エンブレースの **MedicalCare** STATION を採用する



MedicalCare STATION

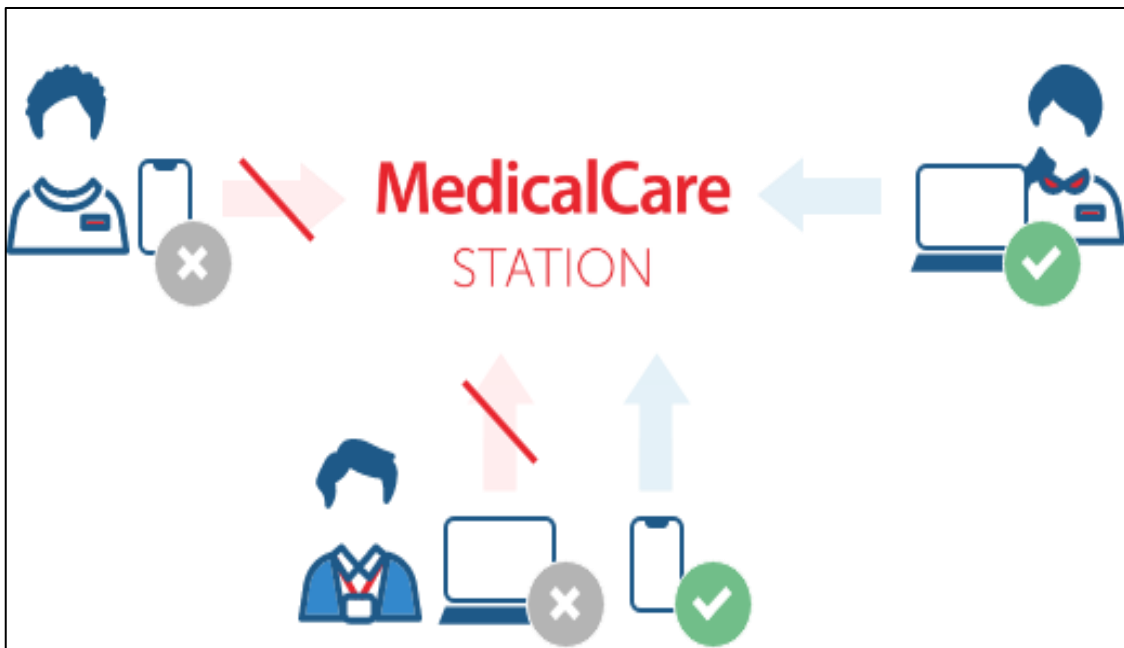


- ・医療と介護の**連携に特化したツール**
- ・**完全非公開型のSNSで、招待制になっているため、必要な人とのみ情報共有が出来る**
- ・**図のように、さまざまなデバイスで登録・利用が出来る為、災害時の事も考え、活用している自治体も増えてきている**
- ・**数多くあるICTツールの中で、患者様・ご家族様をグループに招待する事が可能となってる**



☆すべての情報・データのやりとりを暗号化

MCSの通信についてはインターネットを介して行われるが、TL1.2+「TLS暗号設定ガイドライン3.0.1版」に規定される最も安全性水準の高い「高セキュリティ型」の設定に準じて暗号化しており、改竄や盗聴等を防いでいる。



☆二要素認証(クライアント認証)機能を使用することにより、利用可能な端末を制限できる

MCSでは本人認証・端末認証として「クライアント証明書」の発行機能を提供している。ユーザの特定の端末に、MCS専用認証局から発行される「クライアント証明書」をインストールし設定を行える。その証明書を利用し「二要素認証(クライアント認証)」を行うことが出来る。これにより、第三者による不正使用のリスクが軽減され、高いセキュリティを保つことが可能である。

☆MCSの運用に必要なインフラ(サーバ等)はすべて日本国内のものを運用している

国外への業務委託は行っておらず、国外にある事業者がMCSのデータ等にアクセスしたり、国外サーバーへデータが移管・保管されるといったことはない。



患者情報の登録について

- ・名前
- ・一言メモ(かかりつけ医)
- ・疾患名
- ・薬歴
- ・生年月日
- ・性別、年齢
- ・電話番号
- ・住所
- ・保険情報 登録が可能

○郡山市内の患者登録について

- ・以前: 医師のみ登録可能
- ・現在: 多職種で登録可能

※医療機関、居宅、包括が中心

7:39 3月2日(水) 99%

郡山 太郎 (デモ)

郡山 太郎
こおりやま たろう
男性 | 89歳

かかりつけ 本人 データ

郡山市医療介護病院 編集

医療・介護側

名前
郡山 太郎
こおりやま たろう

一言メモ (患者名の後ろに表示されます)
(デモ)

疾患名

- ・褥瘡
- ・高血圧症

薬歴
まだ、登録はありません

生年月日
1932 (昭和7) 年7月20日

性別 | 年齢
男性 | 89歳

電話番号

患者様の写真も登録する事が可能

登録した機関名が表示される

郡山の場合、
かかりつけ機関名を入力してもらう





・患者様、家族様を招待した際に、医療介護側のラインと、患者側のラインを分けることが可能

・シンプルで使いやすい
・基本料金は無料 ※10/3～有料版もあり
・3省2ガイドラインに準拠したセキュリティ



3. 郡山市内におけるICTツールの登録状況



郡山市内でのICT(MCS)導入～現在まで

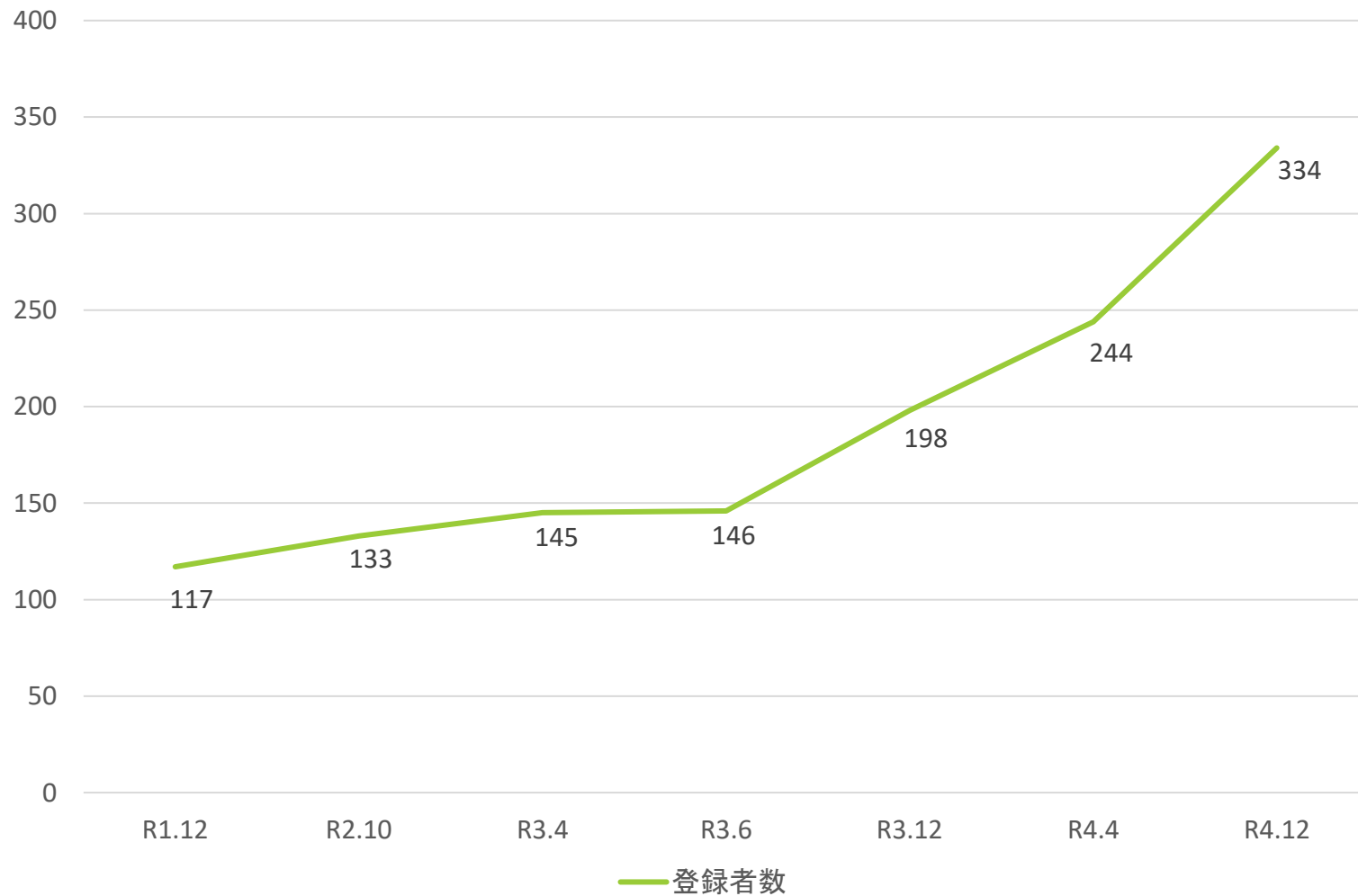
1. 平成30年11月：当センター開設
2. 令和01年07月：郡山医師会としてMCSの採用を決定
3. 令和01年08月：初の勉強会を開催。MCS内に「郡山医師会多職種連携ネット」コミュニティを立上げ運用開始となる。
4. 令和01年12月：登録者数117名
5. 令和02年10月：登録者数133名
6. 令和03年04月：登録者数145名
7. 令和03年12月：登録者数198名
8. 令和04年04月：登録者数244名
9. 令和04年09月：医療機関向け研修会
9. 令和04年12月：登録者数330名



郡山市内でのICT(MCS)登録者推移

※郡山医師会多職種連携ネット参加者数より

MCS登録者数



▪ R1年8月より開始



▪ R3年6月まで加入数が緩やか



▪ R3年9月より普及活動を変更



3ヶ月で約50名増加

▪ R3年12月に登録者数198名



▪ R4年12月の登録者数330名

普及活動変更後、2倍以上増加

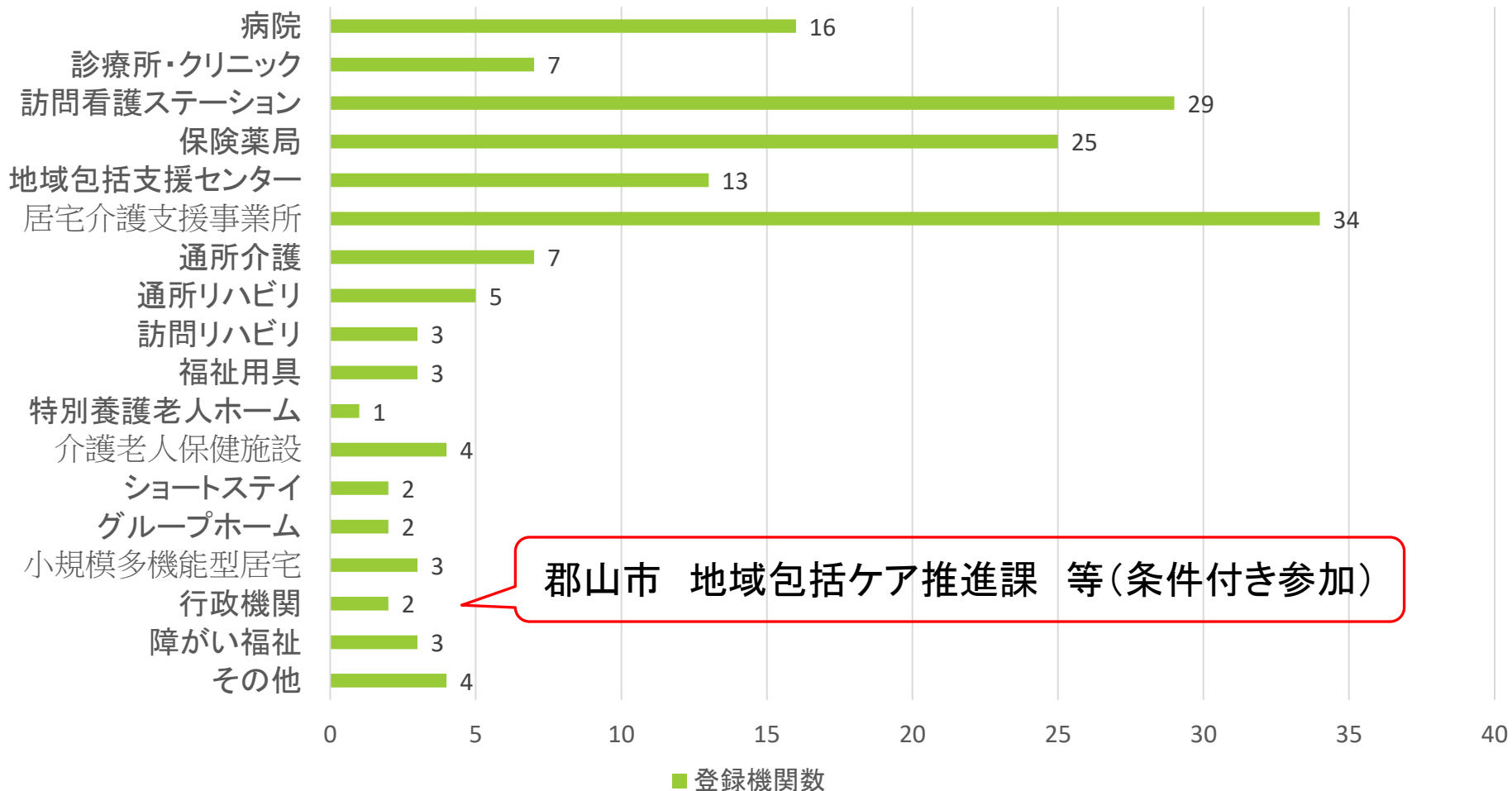


ICT(MCS)登録機関数内訳

※郡山医師会多職種連携ネット参加者数より

- ・病院(精神科を含む): 16/20機関(約80%)
- ・訪問看護: 29/36機関(約80.5%)
- ・地域包括支援センター: 13/17機関(約76.4%)
- ・居宅介護支援事業所: 34/72機関(約47.2%)

登録機関数



郡山市 地域包括ケア推進課 等(条件付き参加)

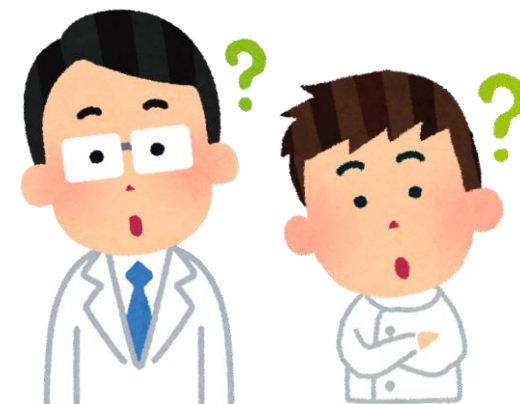
R4.12.28現在
総登録機関数
162機関

4. 在宅療養支援における活用について



在宅における課題

1. タイムリーな情報共有が難しい
2. 支援者が増えるほど、情報共有をするのに労力がかかる
3. 主治医や訪問看護ステーションに状態変化の報告をするのに、
写真を撮って写真をプリントアウトしてアポイントを取って等の工程が必要で、すぐに報告できない
4. FAXやメールは誤送信等のヒューマンエラーが起こりやすい
5. 支援者によって意向が変わるような患者様・家族様に対して統一した対応を検討しにくい



在宅における活用①

入退院支援について

- ・入院時情報提供
- ・サービス利用状況
- ・MCS患者グループ招待 等



- ・入退院時情報共有
- ・処方薬の情報共有
- ・MCS患者グループ招待 等

MedicalCare STATION

MedicalCare STATION

医療機関 (MSW・連携室)

- ・退院時情報提供
- ・サービス調整相談
- ・医療処置内容共有
- ・リハビリ状況の共有 等

- ・生活情報の収集
- ・サービス利用状況の確認
- ・患者グループ招待や参加 等

地域包括支援センター 居宅介護支援事業所

MedicalCare STATION

- ・入退院時情報共有
- ・サービス利用相談
- ・退院時確認事項の共有 等

在宅医・かかりつけ薬局

Word、Excel、PowerPoint、PDF 等幅広いファイル形式で、1ファイル最大50MBまで添付可能



在宅における活用②

患者グループを立ち上げチームで情報を共有

7:39 3月2日(水) 99%

郡山 太郎 (デモ)

郡山 太郎
こおりやま たろう
男性 | 89歳

かかりつけ 本人 データ

郡山市医療介護病院 編集

医療・介護側

名前
郡山 太郎
こおりやま たろう

一言メモ (患者名の後ろに表示されます)
(デモ)

疾患名

- 褥瘡
- 高血圧症

薬歴
まだ、登録はありません

生年月日
1932 (昭和7) 年7月20日

性別 | 年齢
男性 | 89歳

電話番号

7:39 3月2日(水) 99%

郡山 太郎 (デモ)

医療・介護側 患者側 +

3人 +招待

メッセージを入力して下さい

国分 元樹 2/28 15:32
社会福祉士 他 (郡山市医療介護病院)
ありがとうございます。
マットはそのままが良いでしょうか。
2人 1件の返信

最終返信(2日前)
福井 謙 オッケーです

福井 謙 2/28 15:31
医師 (モミの木クリニック)
(スマホより)
本日、診察しました。
皮膚は改善していました~
2人 返信

国分 元樹 2/28 15:29
社会福祉士 他 (郡山市医療介護病院)
ありがとうございます。
本日の訪問時に褥瘡部分で気になる点がありましたので画像をお送りいたします。

患者情報を登録する



患者グループを立ち上げる事が可能



グループを立ち上げる事で...

- ①招待したメンバーのみで情報を共有が可能
- ②情報を一括で送付 = 抜けなく情報を共有 手間が省ける



例えば・・・ケアプランを交付する場合



△以前

☆1事業所ずつ交付＝手間と時間がかかる

○現在 (MCS)

☆MCSグループ内にアップするのみで可能

＝手間も時間も短縮、日時も残るので管理しやすい

7:39 3月2日(水) ケアプラン (MCS)

完了

1/5 第1表 居宅サービス計画書(1) 作成年月日 令和4年2月28日

初回・紹介・継続 認定済・申請中

利用者名 郡山 太郎 殿 生年月日: 昭和7年7月20日 住所: 福島県郡山市富田町

居宅サービス計画作成者氏名: 園分 元樹 (介護支援専門員)

居宅介護支援事業者・事業所名及び所在地: 郡山市居宅介護支援事業所 / 福島県郡山市

居宅サービス計画作成(変更)日: 令和4年3月1日 初回居宅サービス計画作成日: 令和4年3月1日

認定日: 令和4年2月25日 認定の有効期間: 令和4年2月1日 ~ 令和5年2月28日

要介護状態区分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
利用者及び家族の生活に対する意向	<ul style="list-style-type: none"> 本人「おしりの所が痛い。先生や看護師さんに診てもらって良くしたい。たまには外にも出たい。これからも我が家で、ばあさんと2人で生活したい」 妻 「風邪をひいてから急に動けなくなってきた。今おしりのあたりに床ずれが出来ている。おしりが痛いつらから軟膏等を付けているけど良くならない。先生や看護師さんをお願いしたい。じいさんも家に居たいというから、今より動けなくならないようにしていきたい。」 				
介護認定審査会の意見及びサービスの種類の指定	<ul style="list-style-type: none"> 新規申請にて認定 特に指定等なし 				
総合的な援助の方針	体調を崩したことで体力が低下したことから、動けなくなっている状態が続いています。また、臀部に褥瘡があり治療とケアが必要な状況です。ご本人が望む「自宅での奥様との継続した生活」が実現できるよう、介護サービス等を利用し、状態維持をしていきましょう。 1・臀部の褥瘡に関して必要な治療とケアを受け、少しでも改善できるように努めましょう。 2・状態を維持していく為にも、本人のニーズでもある外出機会を設けていけるようにしましょう。				
生活援助中心型の算定理由	1. 一人暮らし 2. 家族等が障害、疾病等 3. その他 (高齢夫婦世帯)				

第2表 居宅サービス計画書(2)

利用者名 郡山 太郎 殿 作成年月日 令和4年2月28日

生活全般の解決すべき課題(ニーズ)	目標				サービス内容	援助内容		
	長期目標	(期間)	短期目標	(期間)		※1 サービス種別	※2 頻度	期間
1. おしりのところが床ずれが良くなり、先生や看護師さんに診てもらって良くしたい。	床ずれが良くなり、痛み、先生や看護師さんに診てもらって良くしたい。	R4年3月~5月	治療とケアを受け少しずつ改善することが出来る。	R4年3月~R4年4月	①訪問診療、検査、投薬処方、栄養指導、サービス指示	①訪問診療 栄養指導	①月2回	
					②医療処置、全身状態確認、内服確認、バイタル測定、緊急時対応、主治医との連携、家族指導等	②訪問看護	②週2回・随時	
					③気になる点を相談する、同じ姿勢にならない、起き時間を増やす	③本人	③毎日	
					④起きている時間を増やす、処置を行う、バランスが良い食事の提供	④家族	④毎日	
					⑤特殊寝台一式、除圧マット貸与	⑤福祉用具	⑤月1回	

※1 「保険給付の対象になるかどうかの区分」について、保険給付対象内サービスについては○印を付す。
 ※2 「当該サービス提供を行う事業所」について記入する。

例えば・・・体調変化等を共有する場合



△以前

☆写真を撮る→主治医に連絡→印刷をする
→訪問のアポイントを取る→主治医に訪問し報告

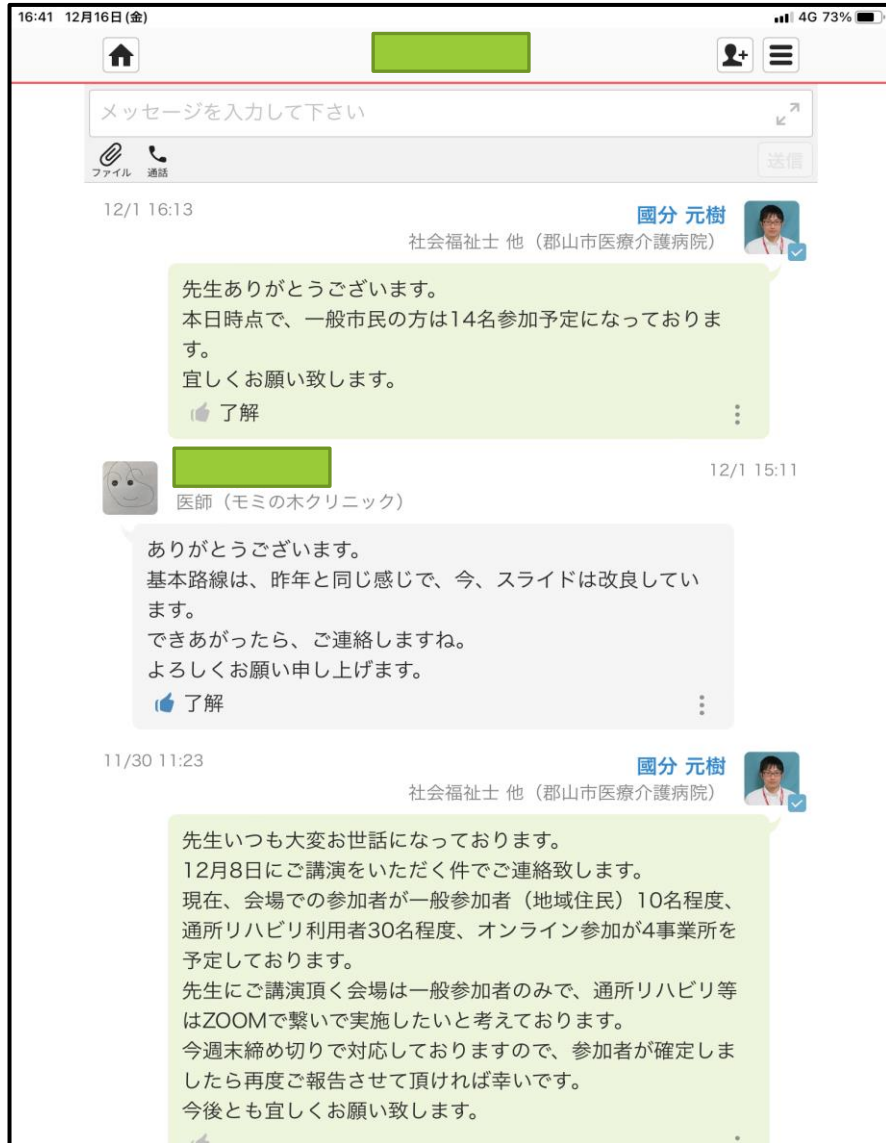
○現在 (MCS)

☆主治医に連絡しMCSグループ内にアップするのみ
=タイムリーな情報を主治医・グループ内で共有出来る



在宅における活用③

事業所同士1対1で情報を共有



☆ 医師と「つながり機能」を利用したやり取り



- 研修会の打ち合わせや資料のやり取り
- 保険情報や負担割合証等の送付
- 患者グループが立ち上がっていない方の医療機関とのやり取り(入院時情報 等)
- 個別で連絡が必要な案件について 等



- アイコンと名前表示により誤送信しにくい
- メールよりウイルスへの感染リスクが低い

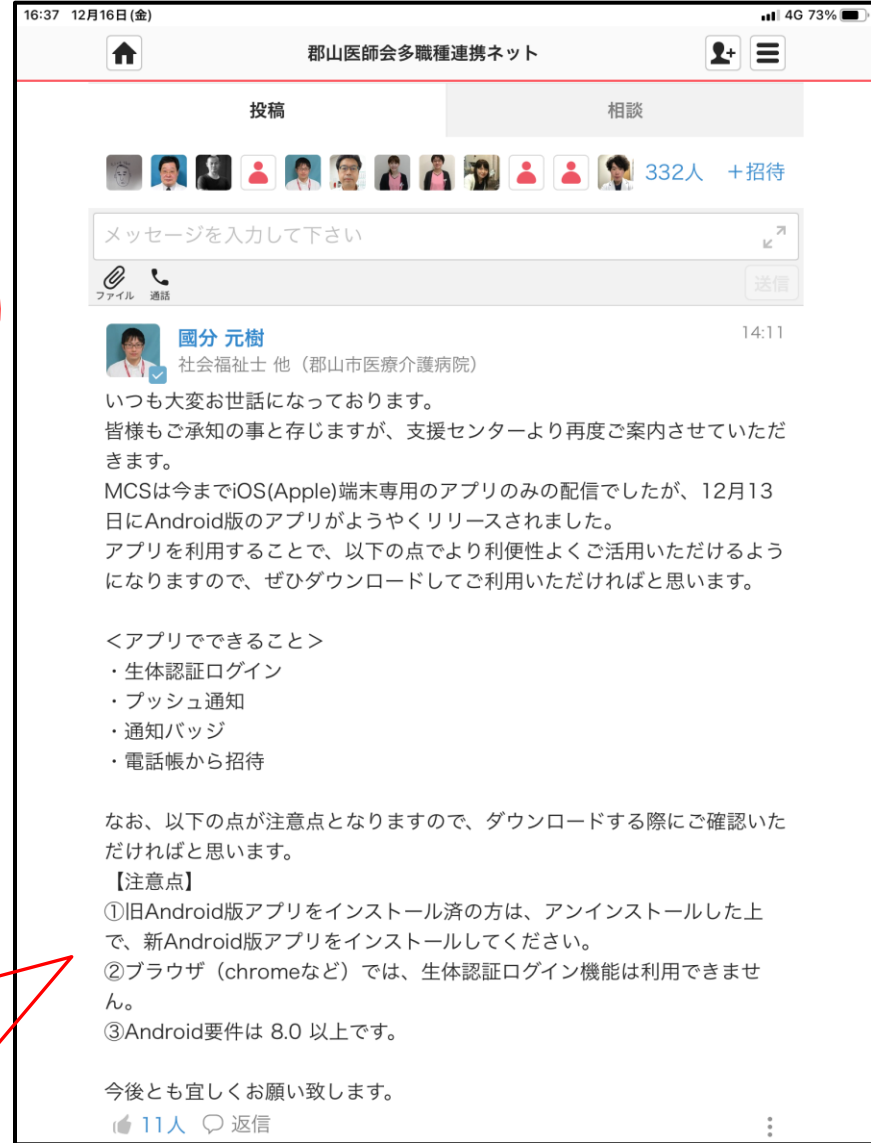


在宅における活用④

多職種向けの情報を共有



郡山医師会で
コミュニティを
運営している



- ①MCSの「招待によるつながり」をもつ役割
 - ②多職種向けの情報を共有する場としての役割
- 【例】多職種向けの研修情報、災害時の情報共有



<まとめ>

郡山医師会では、郡山市在宅医療・介護連携支援センターを中心に、地域包括ケアシステムの推進に向け、ICTツール(MCS)の普及を進めている。

現在、登録者数の増加と共に、市内における患者グループ立ち上げ情報共有しているとの声が多く聞かれるようになってきた。今後、アンケート調査等を行い、どの程度活用が進んでいるのか検証を予定している。

また、登録者数の増加に伴い、郡山市内の運用規定について整備を進めて行くことも検討している。

今後、クリニックの医師・関係者及び介護施設の加入数の増加に向け、普及・啓発活動を実施していく。



ご清聴
ありがとうございました

